

静岡市立長田西小学校



出前授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和4年5月31日(火)

大昔の暮らしに興味をもつことができました！

静岡市立長田西小学校の6年生128人が、大昔の生活を体験して、当時の人々の暮らしや歴史を楽しみながら学ぶことを目的に、6年部の梶山先生が出前授業を計画し、発掘調査の話（地域の遺跡）、土器の分類・石器の試し切り・火起こしの4つの体験活動を行いました。

埋蔵文化財センターの業務内容と長田西小学校周辺の遺跡について、興味深く聞いていました。

発掘調査の話(地域の遺跡)

「『興味を持ち続けること』という言葉が心に残りました。」



「地形が変わってきたことがわかりました。」「自分には関係ないと思っていたけど、話を聞いて身近なものになりました。」「時代の変化がわかりました。」

はじめは、旧石器時代や縄文時代・弥生時代などの古代の話をしながらか進めました。打製石器や磨製石器など石器の種類や、石器の役割など、詳しく説明しました。その後、黒曜石を使って、新聞紙や持参したニンジンやキャベツなどの野菜くずの切れ味を試しました。

石器の試し切り体験

土器の分類体験



「今は包丁を簡単に買える時代だけど、昔は石器が欠かせないものだったことがわかりました。」



縄文時代から古墳時代までの簡単な時代の流れを聞いた後、縄文土器・弥生土器・須恵器の完成品を見ながら、土器片を分類しました。実物を見たり、触ったりすることで、色や厚さ、形、重さなどの違いがわかってきて、分類に迷った土器片も分けることができました。

火起こし体験

「昔は火を付けるのに苦労していた。今は快適。」



「火起こしは大変でした。今は普通に火を付けられるので進歩した。」

「土器の分類をするとき、作り方や模様が変わっていました。」

「時代が変わったことがわかりました。」

小雨の降るあいにくの天気でしたので、プールの軒先で火起こしを行いました。最初は、火の歴史と火の意義について考えてみました。もみきり法や弓きり法、舞きり法などを紹介したあと、自分たちが舞きり法で火起こしをします。力を入れすぎて弾み車を調子よく回せず、なかなか火種ができず苦労しました。慣れてくるとリズムよく回すことができるようになり、さらに2人1組で協力して弾み車を回している班は火種を作ることができました。「フーフータイム」も風向きを考え、慎重に息を吹きかけ火を起こすことができました。

梶山先生の感想

「説明が丁寧で、分かりやすかったです。どの子ども大昔のくらしに興味をもつことができました。子どもたちは、すごく楽しく活動ができ、喜んでいました。学区に古墳がたくさんあることにも驚き、行ってみたいと思っている子どももいました。」

「あと10分くらい時間があると良かったです。」